

フォレストニュース

植林が地球を救う

平成29年(2017)3月10日

No. 111

発行 高津啓洋

まだ灼熱のレダは夏

レダの2月はまだ夏の盛りです。3月になると雨期になって、雨が降ることが多くなります。例年たわわに実るグレープフルーツは4月には色づき始め、収穫の盛りとなります。

リンゴ農家出身の野口君がブーゲンビリアをはじめ、伸びきってしまった花木を剪定。忙しく、広いレダで汗ダクダクで剪定に勤む野口君。

吉村さんが蒔いた花の種も、きれいな花を咲かせています。レダは面倒見がよければ、どんな花で



もきれいに咲きます。これからは、日本でいう秋、実りの季節です。アセロラは年に2



植樹園の中の動物



北中さんとビクトル君

ろと思う頃には、ほとんど実がなくなってしまうことはしょっちゅうです。北中さんとビクトル君が畑づくりです。

ケブラッチョの種が入った鞘が赤く色づきました。貴重なもので、鉄のように重く、木なのに水に沈み、硬すぎて釘を打ち込むことはできません。

回収の時期があります。今、沢山の果実が収穫可能ですが、やはり一番おいしい時期をしているのはパンターールの鳥たちです。そろそ

ん。のこぎりと、斧と、ドリルがセットとなって加工されます。大変に強い木なので、牧場の柵など様々なところに用いられています。

また植樹園に住み着いた狸のような動物が、じっとこちらを見えています。



たわわに実ったグレープフルーツ



ケブラッチョの種の入った鞘